

第二期  
小平市国民健康保険データヘルス計画  
中間評価（素案）

令和3年●月  
小平市  
(小平市国民健康保険)

## 目次

はじめに	.....	1
1 特定健康診査	.....	3
1-1 特定健康診査受診勧奨(通知送付)		
1-2 集団健診		
1-3 人間ドック助成		
1-4 職場の健診結果提出		
2 がん検診	.....	11
3 健診異常値放置者受診勧奨	.....	13
4 特定保健指導	.....	15
5 糖尿病重症化予防指導	.....	17
5-1 重症化予防プログラム		
5-2 重症化予防プログラム未参加者への受診勧奨		
6 多受診者指導	.....	22
7 ジェネリック医薬品差額通知	.....	24
8 第二期データヘルス計画の実績	.....	26

## はじめに

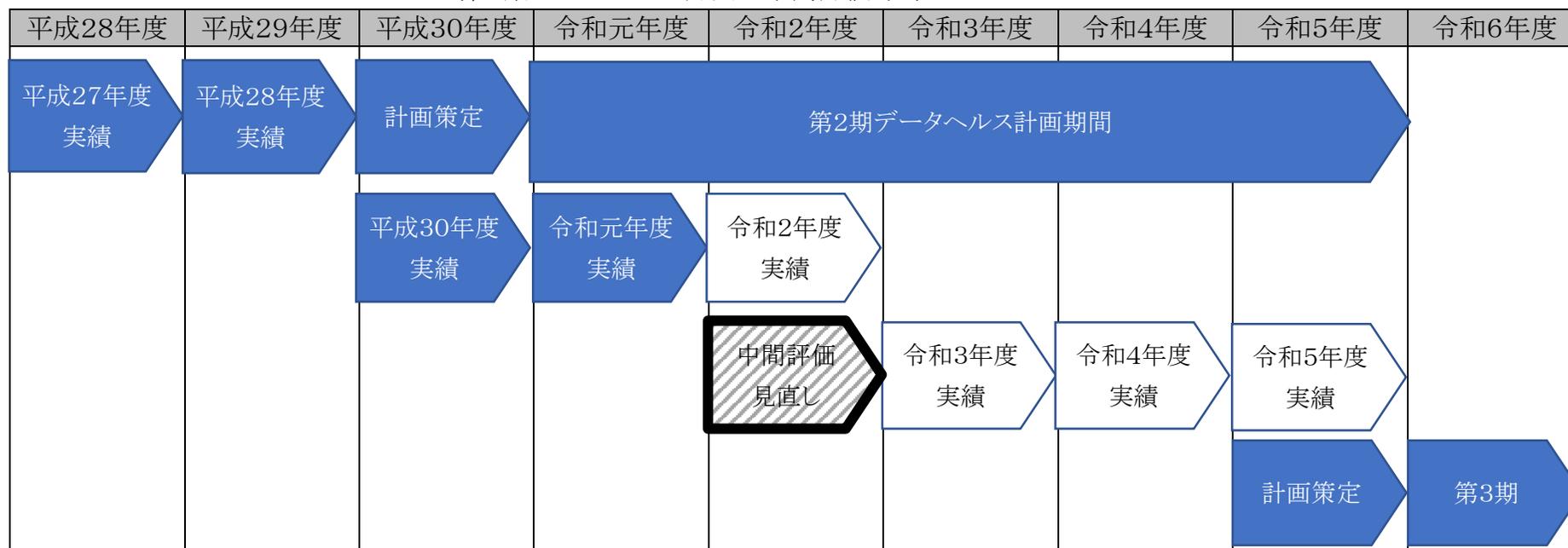
令和2年度は、第2期データヘルス計画の中間評価・見直しの年度となっています。データヘルス計画の中間評価・見直しを行う目的は、立案した計画が軌道に乗っているかを確認し、計画が滞っている場合は、事業効果を高めるための改善策等を検討し、目標達成に向けての方向性を見出すことにあります。

中間評価・見直しにあたり、データヘルス計画全体としての評価を行うため、データヘルス計画を構成する個別保健事業計画に基づいて実施された事業の実績等を振り返り、計画の目的・目標の達成状況・指標の在り方について、データ分析等をもとに整理、評価を行います。評価の結果、目標達成が困難と見込まれる事業については、課題や目標達成を阻害する要因を分析し、改善方法を検討の上、必要に応じて実施内容等の見直しを行います。

評価のなかで、「指標判定」「事業判定」については、A～Dの4つの区分により判定します。

※判定区分 **A**:達成できている **B**:達成できていない・改善が必要 **C**:事業継続が困難 **D**:評価不能

第2期データヘルス計画の中間評価・見直しのスケジュール



# 1 特定健康診査

## 事業内容(現状)

背景	生活習慣病に起因する医療費の上昇を抑制する必要がある。
目的	生活習慣病の早期発見 特定健診や各種検診により、生活習慣や健康状態を把握し、生活習慣の改善が必要な対象者や医療機関への通院が必要な対象者に、適切に情報提供を行う。
具体的内容	<b>【対象者】</b> 小平市国民健康保険に加入している40歳～74歳以下の者 <b>【実施方法】</b> ①個別健診:特定健康診査の対象者全員に、6月下旬に受診書類を発送。市内及び近隣市の医療機関で、7月～10月の間に特定健康診査を受診させる。 ②集団健診:個別健診未受診者を対象に、集団健診申込通知を発送する。申込者に対して、1月～2月の間に健康センターで実施する集団形式の特定健康診査を受診させる。 <b>【実施者】</b> ①個別健診:小平市、国分寺市、東村山市、東大和市の医師会加入医療機関(委託契約) ②集団健診:公益財団法人結核予防会 複十字病院(委託契約)
評価指標 目標値	<b>【結果(アウトカム)】</b> 特定健康診査受診率(法定報告値) 平成30年度 50%、令和元年度 52%、令和2年度 54%、令和3年度 56%、令和4年度 58%、令和5年度 60%

評価と見直し・改善案

事業名	評価指標 (アウトカム・アウトプット)	目標値	ベース ライン	経年変化	指標 判定	事業 判定	要 因 (うまくいった・うまくいかなか った要因)	見直しと改善の案
特定健康 診査	特定健康診 査 受 診 率 (法定報告 値)	令和5年 度 60%	平成28 年度 48.7%	平成29年度 49.3% 平成30年度 52.1% 令和元年度 -	B	B	<p><b>【うまくいっている要因】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特定健康診査受診勧奨事業、集団健診、人間ドック助成については、目標値を達成できている。</li> <li>・上記事業以外にも、チラシ配布(自治会・シルバー人材センター)、職場の健診結果提出、広報(国保だより、デジタルサイネージ等)、イベントでの周知(健康ポイント事業など)を行っている。</li> </ul> <p><b>【うまくいっていない要因】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・40代～50代の若年層の受診率が低い。</li> <li>・過去に一度も健診を受診していない健診未経験者に対する勧奨ができていない。有効な勧奨方法も確立できていない。</li> <li>・通知文書以外の手段による勧奨ができていない。他自治体では電話やSMSによる受診勧奨を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国保連の支援・評価委員会から、特定健診受診率は、事業を追加すればするほど向上するとのアドバイスがあった。</li> <li>・通知文書の見直しとして、若年層の受診率向上につながる内容を検討する。</li> <li>・勧奨対象者の追加として、健診未経験者への勧奨も実施を検討する。</li> <li>・勧奨手段の追加として、文書以外の電話やSMSによる勧奨の実施を検討する。</li> </ul>

## 1-1 特定健康診査受診勧奨(通知送付)

### 事業内容(現状)

背景	生活習慣病に起因する医療費の上昇を抑制する必要がある。
目的	生活習慣病の早期発見 特定健診や各種検診により、生活習慣や健康状態を把握し、生活習慣の改善が必要な対象者や医療機関への通院が必要な対象者に、適切に情報提供を行う。
具体的内容	<p>1 40歳の新規特定健診対象者に対する通知</p> <p><b>【対象者】</b> 40歳の新規特定健診対象者</p> <p><b>【実施方法】</b> 新規特定健診対象者向けの特定健診受診勧奨通知を送付する。</p> <p><b>【実施者】</b> 小平市</p> <p>2 前年度特定健診未受診者</p> <p><b>【対象者】</b> 40歳～60歳代のうち前年度特定健診未受診者</p> <p><b>【実施方法】</b> 対象者に特定健診受診勧奨通知を発送する。 令和元年度は更に、対象者の健康意識に合わせた特定健診受診勧奨通知の送り分け(4パターン)を実施した。</p> <p><b>【実施者】</b> 平成30年度 外部委託事業者(株式会社NTTデータ) 令和元年度 外部委託事業者(株式会社キャンサーズキャン)</p>
評価指標 目標値	<p><b>【アウトプット】</b> 勧奨通知送付回数 年1回</p> <p><b>【アウトカム】</b> 送付後の受診率 20%</p>

評価と見直し・改善案

事業名	評価指標 (アウトカム・アウトプット)	目標値	ベース ライン	経年変化	指標 判定	事業 判定	要 因 (うまくいった・うまくいかなか った要因)	見直しと改善の案
特定健康 診査受診 勧奨(通 知送付)	勧奨通知 送付回数	年1回	—	1 40歳の新規特定 健診対象者に対する 通知 平成30年度 1回 令和元年度 1回 2 前年度特定健診 未受診者 平成30年度 1回 令和元年度 1回	A	A	【うまくいった要因】 ・令和元年度より、通知内容 について4パターン作成し、 対象者の特性にあわせて送り わけを行うことで勧奨効果を 高めた。 ・令和元年度より、委託事業 者のAI技術を活用し、特定健 診未受診者の中から特に通 知勧奨効果の高い対象者を 抽出し、勧奨を行った。	・毎年度同じ内容の通知文書 を送付すると、対象者が通知 内容に慣れてしまい、受診勧 奨が形骸化してしまうため、適 宜文書内容の見直しを行い、 勧奨効果を維持する。
	送付後の 受診率	20%	—	1 40歳の新規特定 健診対象者に対する 通知 平成30年度 26.7% 令和元年度 21.6% 2 前年度特定健診 未受診者 平成30年度 12.2% 令和元年度 40.1%	A			

## 1-2 集団健診

### 事業内容(現状)

背景	生活習慣病に起因する医療費の上昇を抑制する必要がある。
目的	生活習慣病の早期発見 特定健診や各種検診により、生活習慣や健康状態を把握し、生活習慣の改善が必要な対象者や医療機関への通院が必要な対象者に、適切に情報提供を行う。
具体的内容	<p><b>【対象者】</b> 特定健康診査の対象者で、特定健診実施期間である7月～10月の間に受診できなかった者</p> <p><b>【実施方法】</b> 特定健診未受診者に対して、9月上旬に特定健診受診勧奨通知及び集団健診申込書を発送。集団健診申込者に対して、1月～2月の間に5日間開催する集合形式の特定健康診査(会場:健康センター)を受診させる。</p> <p><b>【実施者】</b></p> <p>①特定健診受診勧奨通知及び集団健診申込書 平成30年度 小平市 令和元年度 委託事業者(株式会社キャンサーズキャン)</p> <p>②集団健診実施者 公益財団法人結核予防会 複十字病院</p>
評価指標 目標値	<p><b>【アウトプット】</b> 勧奨通知送付回数 年1回</p> <p><b>【アウトカム】</b> 受診者数 600人</p>

評価と見直し・改善案

事業名	評価指標 (アウトカム・アウトプット)	目標値	ベース ライン	経年変化	指標 判定	事業 判定	要 因 (うまくいった・うまくいかなか った要因)	見直しと改善の案
集団健診	勸奨通知 送付回数	年1回	—	平成30年度 1回 令和元年度 1回	A	A	<b>【うまくいった要因】</b> ・特定健診受診勸奨通知及び集団健診申込書について、東京都国民健康保険団体連合会の保健事業支援・評価委員会による助言および、他市の事例研究、委託業者のノウハウを活用し、令和元年度よりの通知内容の見直しを図った。	・集団健診は、特定健診を期間内に受診できなかった者に対する救済手段である。集団健診受診者が、今後、期間内に特定健診を受診するよう、対象者に案内する必要がある。
	受診者数	600人	—	平成30年度 561人 令和元年度 652人	A			

### 1-3 人間ドック助成

#### 事業内容(現状)

背景	生活習慣病に起因する医療費の上昇を抑制する必要がある。
目的	生活習慣病の早期発見 特定健診や各種検診により、生活習慣や健康状態を把握し、生活習慣の改善が必要な対象者や医療機関への通院が必要な対象者に、適切に情報提供を行う。
具体的内容	<b>【対象者】</b> 国内の医療機関で、人間ドックか脳ドックを受診した30歳以上の国保加入者 <b>【実施方法】</b> 人間ドック及び脳ドックの結果の提供した加入者に対して、人間ドックか脳ドックどちらか受診したときは1万円、人間ドック及び脳ドック両方を受診したときは2万円を補助する。 <b>【実施者】</b> 小平市
評価指標 目標値	<b>【アウトプット】</b> 申請件数 600件 <b>【アウトカム】</b> —

評価と見直し・改善案

事業名	評価指標 (アウトカム・アウトプット)	目標値	ベース ライン	経年変化	指標 判定	事業 判定	要 因 (うまくいった・うまくいかなか った要因)	見直しと改善の案
人間ドック助成	申請件数	600件	—	平成30年度 720件 令和元年度 853件	A	A	<p>【うまくいった要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市報やホームページ、市のイベント(健康ポイント事業等)での広報を図り、事業を周知した。特に、特定健診対象者へ一斉発送する受診書類に、チラシを同封したことが、申請件数の増加に繋がっている。</li> <li>・特定健診受診勧奨通知及び集団健診申込書の返信はがきにアンケート欄を設け、アンケートで「人間ドックを受診」と回答した者に対し、申請勧奨を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続して事業の周知を行い、人間ドック受診者の申請漏れが発生しないよう勤める。</li> </ul>

## 2 がん検診

### 事業内容(現状)

背景	生活習慣病に起因する医療費の上昇を抑制する必要がある。
目的	生活習慣病の早期発見 特定健診や各種検診により、生活習慣や健康状態を把握し、生活習慣の改善が必要な対象者や医療機関への通院が必要な対象者に、適切に情報提供を行う。
具体的内容	<b>【対象者】</b> 対象年齢の小平市民  胃がん 40歳以上 肺がん 40歳以上 大腸がん 40歳以上 子宮がん 20歳以上 乳がん 40歳以上
評価指標 目標値	<b>【アウトプット】</b> — <b>【アウトカム】</b> がん検診受診率 胃がん 10% 肺がん 10% 大腸がん 30% 子宮がん 25% 乳がん 25%

評価と見直し・改善案

事業名	評価指標 (アウトカム・アウトプット)	目標値	ベース ライン	経年変化	指標 判定	事業 判定	要 因 (うまくいった・うまくいかなか った要因)	見直しと改善の案
がん検診	胃がん	10%	—	平成 30 年度 4.2% 令和元年度 3.9%	B	B	<b>【うまくいった要因】</b> ・平成 30 年度より全戸配布を始めた「こだいら健康ガイド」に、がん検診の申込みはがきを同封することにより申し込みの利便性を図り、はがきによる郵送申し込みの割合を向上させている。  <b>【うまくいかなかった要因】</b> ・検診の重要性の啓発・周知が不足している。	・継続して、「新たなステージに入ったがん検診推進事業」として、一定年齢の女性市民に乳がん検診と子宮頸がん検診の無料クーポン券の配布や受診勧奨を行い、受診率の向上に勤める。
	肺がん	10%	—	平成 30 年度 6.1% 令和元年度 5.8%	B			
	大腸がん	30%	—	平成 30 年度 24.4% 令和元年度 23.5%	B			
	子宮がん	25%	—	平成 30 年度 13.0% 令和元年度 13.5%	B			
	乳がん	25%	—	平成 30 年度 17.1% 令和元年度 17.9%	B			

### 3 健診診異常値放置者受診勧奨

事業内容(現状)

背景	生活習慣病に起因する医療費の上昇を抑制する必要がある。
目的	生活習慣病の早期発見 特定健診や各種検診により、生活習慣や健康状態を把握し、生活習慣の改善が必要な対象者や医療機関への通院が必要な対象者に、適切に情報提供を行う。
具体的内容	<p><b>【対象者】</b> 健診異常値未治療者</p> <p>①医療機関受診勧奨通知 前年度の特定健診で健診値が人間ドック学会のC(要検査)またはD(要治療)以上に該当する者で、生活習慣病に関連する医療機関の受診が確認できない者。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高血圧:収縮期血圧 140 mmHg 以上、または拡張期血圧 90mmHg 以上</li> <li>・糖尿病:HbA1c6.0%以上または、空腹時血糖 110mg/dL 以上</li> <li>・脂質異常症:中性脂肪 300mg/dL 以上、または HDL39mg/dL 以下、または LDL140mg/dL 以上</li> </ul> <p>②電話による医療機関受診勧奨 特定健康診査の結果で情報提供と判定された者の中から、受診勧奨判定値を超えている者で、特定健康診査の問診票の質問項目から、服薬をしていない者を対象者。</p> <p><b>【実施方法】</b></p> <p>①医療機関受診勧奨通知を発送する。 ②保健師による電話での受診勧奨を行う。</p> <p><b>【実施者】</b></p> <p>①医療機関受診勧奨通知 平成 30 年度 委託事業者(株式会社NTTデータ) 令和元年度 委託事業者(株式会社キャンサーズキャン)</p> <p>②電話による医療機関受診勧奨 小平市(保健師)</p>
評価指標 目標値	<b>【アウトプット】</b> 勧奨通知送付回数 年 1 回

	【アウトカム】 送付後の受診率 20%
--	------------------------

評価と見直し・改善案

事業名	評価指標 (アウトカム・アウトプット)	目標値	ベース ライン	経年変化	指標 判定	事業 判定	要 因 (うまくいった・うまくいかなかった要因)	見直しと改善の案
健診異常 値放置者 受診勧奨	勧奨通知 送付回数	年1回	—	平成30年度 1回 令和元年度 1回	A	B	<b>【うまくいった要因】</b> ・令和元年度より、通知内容について見直を図り、生活習慣病の危険性の周知、他の被保険者の医療機関受診状況を記載。受診率は増加傾向にある。  <b>【うまくいかなかった要因】</b> ・対象者の検査値(D)が悪化してから通知を送付しているため、勧奨の効果的な時期を逸しているのではないかと。  ・受診率は増加傾向にあるが目標には達していない。通知だけでは効果が薄いのではないかと。	・通知文書について、内容の見直しを図り、対象者の特性に合わせた文書とする。  ・対象者を拡大し健診の値がC(要再検査)の者にも通知を送付し、早期に受診させる。  ・通知による勧奨に加え、電話による受診勧奨も検討する。
	送付後の 受診率	20%	—	平成30年度 11.8% 令和元年度 16.3%	B			

## 4 特定保健指導

### 事業内容(現状)

背景	生活習慣病に起因する医療費の上昇を抑制する必要がある。
目的	生活習慣病の重症化予防 生活習慣を改善し、健診の結果値の改善や生活習慣病の発生予防、重症化予防、医療費適正化を目指す。
具体的内容	<p><b>【対象者】</b> 特定健診受診者で受診結果が、特定保健指導の判定基準「積極的支援」、「動機付け支援」に該当する者。</p> <p><b>【実施方法】</b> 「積極的支援」、「動機付け支援」に該当した者に、特定保健指導利用勧奨を行い、申込者に対して特定ほけ指導を実施する。</p> <p><b>【実施者】</b> 平成30年度 委託事業者(株式会社現代けんこう出版)及び小平市保健師、管理栄養士 令和元年度 委託事業者(株式会社現代けんこう出版)及び小平市保健師、管理栄養士</p>
評価指標 目標値	<p><b>【アウトプット】</b> —</p> <p><b>【アウトカム】</b> 特定保健指導実施率(法定報告値) 平成30年度 20%、令和元年度 30%、令和2年度 40%、令和3年度 50%、令和4年度 55%、令和5年度 60% 特定保健指導対象者減少率 25%(平成20年度比)</p>

評価と見直し・改善案

事業名	評価指標 (アウトカム・アウトプット)	目標値	ベース ライン	経年変化	指標 判定	事業 判定	要 因 (うまくいった・うまくいかなか った要因)	見直しと改善の案
特定保 健指導	特定保健 指導実施 率	令和 5 年 度 60%	平成28 年度 17.4%	平成30年度 14.7% 令和元年度 — % (11月以降判明)	B	B	<p>【うまくいった要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特定保健指導の通知文と封筒のデザインや内容を見やすく、関心を引くようなものになるよう工夫した。また、申し込み方法についても明確になるよう記載した。結果、初回面談申込数が増加した。</li> <li>・参加特典(運動グッズ)が好評だった。</li> </ul> <p>【うまくいっていない要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初回面談の申込数は増加したが、当日欠席も多かった。天候不良や体調不良での欠席もあるが、多くは無断欠席であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・封筒を圧着はがきや往復はがきでの通知で、より手軽な開封と申込ができるように改善する。</li> <li>・予約日前日にリマインドのための電話連絡等を行う。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症対策と、天候などに左右されない方法として、遠隔面談の実施について検討する。</li> <li>・よりよい支援による継続率向上と脱落防止のため、個別の支援内容の報告を委託業者に求める。</li> <li>・タイムリーな支援の実施。</li> </ul>
	特定保健 指導対象 者減少率	令和 5 年 度 25% (平 成 20年 度比)	—	平成30年度 9.4% 令和元年度 — % (11月以降判明)	B			

## 5-1 糖尿病重症化予防プログラム

### 事業内容(現状)

背景	生活習慣病に起因する医療費の上昇を抑制する必要がある。
目的	生活習慣病の重症化予防 生活習慣を改善し、健診の結果値の改善や生活習慣病の発生予防、重症化予防、医療費適正化を目指す。
具体的内容	<p><b>【対象者】</b> 特定健康診査の結果とレセプト情報から分析・抽出した、糖尿病腎症の患者であって、人工透析導入前段階の者(糖尿病重症度 2期・3期)</p> <p><b>【実施方法】</b> 対象者に対して、重症化予防プログラムの参加通知及び電話勧奨を行う。参加希望者は、主治医からプログラムの参加確認を受けた上で、事業に参加する。参加者には、保健師等専門職が、訪問面談指導と電話指導を行う。</p> <p><b>【実施者】</b> ①参加確認:小平市医師会加盟医療機関 ②保健指導:委託事業者(株式会社NTTデータ)</p>
評価指標 目標値	<p><b>【アウトプット】</b> 指導実施者数 30人</p> <p><b>【アウトカム】</b> 人工透析移行者数 0人、HbA1cの値を0.2%削減</p>

評価と見直し・改善案

事業名	評価指標 (アウトカム・アウトプット)	目標値	ベース ライン	経年変化	指標 判定	事業 判定	要 因 (うまくいった・うまくいかなか った要因)	見直しと改善の案
糖尿病 重症化 予防プロ グラム	指導実施 者数	30人	平成29 年度 20人	平成30年度 13人 令和元年度 11人	B	B	<b>【うまくいった要因】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラム参加者に対する保健指導は一定程度の成果が現れており、重症化予防につながっている。</li> <li>・委託事業者だけでなく、市の職員からも電話勧奨を行った。</li> <li>・複数の対象者が受診している医療機関には、医師会経由ではなく、直接職員が訪問し、事業説明を行った。</li> <li>・プログラム参加者へ指導終了後、小平市保健師よりフォローアップ電話を行い、参加した感想や近況の確認を行っている。</li> </ul> <b>【うまくいっていない要因】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業対象者が固定化されており、新規対象者が年々少なくなっている。</li> <li>・市内全ての医療機関(医師)に直接事業を説明できていな</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施場所を見直し、自宅以外の場所での面談を検討する。</li> <li>・通知内容の見直し、保健指導の必要性や、参加者の声などを記載し、対象者がプログラムの参加したくなるような文書にする。</li> <li>・市内の医療機関へ直接事業説明を行い、医療機関内での事業認知度を高める。可能な限り、主治医に対して事業説明を行いたい。</li> <li>・医師会等、関係各位に確認の上、必要に応じて、対象者の重症度の見直しを図る</li> <li>・過去の事業参加者への参加勧奨(リピーター)を実施する。</li> </ul>
	人工透析 移行者数	0人	—	平成30年度 0人 令和元年度 0人	A			
	HbA1c の 値	0.2% 削 減	平成28 年度 7.2→7.2 維持	平成30年度 7.8 <sup>2</sup> 6.9 0.9%削減 令和元年度 0人	B			

						<p>い。本事業は医師からののはたらきかけが重要である。</p> <p>・保健指導は、家庭訪問を含む6か月の期間で行うため、参加の敷居が高い。特に自宅に訪問して面談することに対する抵抗感が強い。また既に医療機関で治療中であるため、保健指導の必要性が伝わっていない。</p>	
--	--	--	--	--	--	--	--

## 5-2 糖尿病重症化予防プログラム未参加者への受診勧奨

事業内容(現状)

背景	生活習慣病に起因する医療費の上昇を抑制する必要がある。
目的	生活習慣病の重症化予防 生活習慣を改善し、健診の結果値の改善や生活習慣病の発生予防、重症化予防、医療費適正化を目指す。
具体的内容	<p><b>【対象者】</b> 糖尿病重症化予防プログラムの対象者であって、プログラムに参加しておらず、かつ医療機関を受診していない者。</p> <p><b>【実施方法】</b> 対象者に対して、医療機関受診勧奨の通知を行う。令和元年度より電話勧奨も開始した。</p> <p><b>【実施者】</b> 小平市</p>
評価指標 目標値	<p><b>【アウトプット】</b> 勧奨通知送付回数 年1回</p> <p><b>【アウトカム】</b> 送付後の受診率 100%</p>

評価と見直し・改善案

事業名	評価指標 (アウトカム・アウトプット)	目標値	ベース ライン	経年変化	指標 判定	事業 判定	要 因 (うまくいった・うまくいかなか った要因)	見直しと改善の案
糖尿病重症化予防プログラム	勸奨通知 送付回数	年1回	—	平成30年度 2回 令和元年度 2回	A	B	<b>【うまくいっていない要因】</b> ・通知及び電話勸奨を行っているが、医療機関の受診につ ながっていない。経済事情な ど、本人の意思によらない事 由で受診できない人がいるた め、受診勸奨に加え、生活相 談なども必要になる。	・通知内容の見直し、医療機 関を受診するよう対象者に働 きかける文書とするとともに、 受診できない理由があれば市 に相談するよう連絡先を記載 する。 ・電話勸奨の際、受診できな い個別事情を聴取し、必要に 応じて他部署へつなげる。
	送付後の 受診率	100%	—	平成30年度 0% 令和元年度 0%	B			

## 6 多受診者指導事業

### 事業内容(現状)

背景	生活習慣病に起因する医療費の上昇を抑制する必要がある。
目的	医療機関への早期受診・適正受診 医療機関への早期受診・適正受診により、疾病の重症化及び医療費適正化を目指します。
具体的内容	<p><b>【対象者】</b> レセプト及び健診データを分析し、以下基準の対象者を特定する。 対象者の選定基準。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 1医療機関に8回以上受診している患者。</li> <li>2 同一疾患で3医療機関以上に受診している患者。</li> <li>3 同系の薬が計60日を超えて処方されている患者。</li> </ol> <p><b>【実施方法】</b> 対象者に訪問健康相談の案内文を送付し、専門職(保健師等)が訪問と電話にて指導を実施する。</p> <p><b>【実施者】</b> 委託事業者(株式会社NTTデータ)</p>
評価指標 目標値	<p><b>【アウトプット】</b> 指導実施者数 50人</p> <p><b>【アウトカム】</b> 指導後の受診行動適正化 100%</p>

評価と見直し・改善案

事業名	評価指標 (アウトカム・アウトプット)	目標値	ベース ライン	経年変化	指標 判定	事業 判定	要 因 (うまくいった・うまくいかなか った要因)	見直しと改善の案
多受診者 指導事業	指導実施 者数	50人	平成29 年度 30人	平成30年度 50人 令和元年度 48人	B	B	<b>【うまくいっている要因】</b> ・訪問健康相談事業として対象者に案内しており、対象者が事業に参加しやすい。  ・対象者からの相談を踏まえ、専門の指導員が指導を行うため、受診行動適正化が計れる。  <b>【うまくいっていない要因】</b> ・訪問健康相談として対象者に案内するため、意図して不適切な受診行動を行っている対象には、指導がいきわたらない。  ・指導後も受診行動が適正化されていない者へのフォローアップができていない。	・多受診、頻回受診に関するリーフレットを配布し、指導実施者以外の対象者及び被保険者に対して、広く受診行動の適正化を周知する。  ・受診行動の適正化が図れていない指導実施者に対しては、必要に応じて市の保健師等によるフォローアップを検討する。
	指導後の 受診行動 適正化	100%	平成28 年度 93.1%	平成30年度 88% 令和元年度 91.7%	B			

## 7 ジェネリック医薬品差額通知

事業内容(現状)

背景	生活習慣病に起因する医療費の上昇を抑制する必要がある。
目的	医療機関への早期受診・適正受診 医療機関への早期受診・適正受診により、疾病の重症化及び医療費適正化を目指します。
具体的内容	<p><b>【対象者】</b> レセプト及び健診データを分析し、以下基準の対象者を特定する。 対象者の選定基準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 20歳以上。</li> <li>2 先発医薬品からジェネリック医薬品に切り替えた際の削減可能額が 100 円以上。</li> </ol> <p><b>【実施方法】</b> 対象者にジェネリック医薬品差額通知を送付する。</p> <p><b>【実施者】</b> 委託事業者(株式会社NTTデータ)</p>
評価指標 目標値	<p><b>【アウトプット】</b> —</p> <p><b>【アウトカム】</b> ジェネリック医薬品使用割合 80%(令和2年度の早い時期)</p>

評価と見直し・改善案

事業名	評価指標 (アウトカム・アウトプット)	目標値	ベース ライン	経年変化	指標 判定	事業 判定	要 因 (うまくいった・うまくいかなかった要因)	見直しと改善の案
多受診者 指導事業	ジェネリック医薬品 使用割合	80% (令和2年度の早い時期)	平成29年度 67.8%(11月時点)	平成30年度 72.5% 令和元年度 75.6%	B	B	<p><b>【うまくいっている要因】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通知発送対象者は年々減少傾向にあり、切替えが進んでいる。</li> <li>・通知加え、保険証一斉更新の際、保険証にジェネリック希望シールを同封し切替えを進めている。</li> </ul> <p><b>【うまくいっていない要因】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一定程度、先発医薬品を希望する人がおり、切替えがすすんでいない。(通知の効果が薄い。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・切替えを進めるに、チラシによるジェネリックの認知率向上を図る。特に、ジェネリック医薬品の安全性に疑問を持つ被保険者が多いため、安全性を説明する内容のチラシを用意し、窓口への配置や市のイベント(健康ポイント事業など)で配布を行う。</li> </ul>

## 8 第二期データヘルス計画の実施状況評価

評価指標 目標値	<p>【ストラクチャー】 計画達成に向けた体制が確保され、関係者と連携が図れているか。</p> <p>【プロセス】 データを活用した現状分析と、分析結果を活用した課題抽出ができているか。</p> <p>【アウトプット】 データヘルス計画上の保健事業が実施できているか。</p> <p>【アウトカム】 健康寿命が延伸できているか。 医療費の適正化が図られているか。</p>
-------------	---

評価と見直し・改善案

評価視点	評価指標	現状分析	指標判定	事業判定	今後の方向性
ストラクチャー	計画達成に向けた体制が確保され、関係者と連携が図れているか。	<b>【体制】</b> 保険年金課 担当者2名 健康推進課 保健師2名、管理栄養士1名 <b>【関係者との連携】</b> 小平市国民健康保険運営協議会、小平市医師会への事業実施状況報告 高齢者支援課等関係部署との連携	A	B	特定健診受診勧奨等、各保健事業の目標達成及び実績の向上を目指し、引き続き取組を推進する。 特に事業判定が「B」となった個別保健事業については、事業の見直しと改善策の実施し、目標達成を図る。
プロセス	データを活用した現状分析と、分析結果を活用した課題抽出ができてきているか。	特定健診の受診結果、レセプトデータ、KDBシステムから抽出した統計情報を活用した現状分析を行い、課題抽出を行っている。	A		
アウトプット	データヘルス計画上の保健事業が実施できているか。	データヘルス計画上で設定した事業は全て実施している。	A		
アウトカム	健康寿命が延伸できているか。※平均自立期間(要介護2未満の期間)	計画策定時よりも健康寿命は延伸できている。	A		
		<b>【計画策定時】</b> 平成28年度 男 79.6 女 83.9 (東京都平均) 男 79.1 女 83.9 <b>【中間評価時】</b> 令和元年度 男 80.4 女 84.1 (東京都平均) 男 79.8 女 84.1			
アウトカム	医療費の適正化が図られているか。※一人当たり医療費(入院・外来合計)	医療費は年々増加傾向にあり、さらに東京都平均よりも小平市は医療費が高くなっている。	B		
		<b>【計画策定時】</b> 平成28年度 22,341 円 (東京都平均) 22,052 円 <b>【中間評価時】</b> 令和元年度 24,143 円 (東京都平均) 23,660 円			